



いわて医療通信
肝臓の疾患⑥

非アルコール性 脂肪性肝疾患

肝細胞に(中性)脂肪が沈着して肝障害を引き起こす病態を脂肪性肝疾患と言います。このうち、肝臓の組織で脂肪滴を伴う肝細胞が

30%以上認められる場合を

脂肪肝といいます。非アル

コール性脂肪性肝疾患とは、

飲酒習慣のない(または少

ない)方に認める脂肪肝を

指します。高血圧・高脂血

症・高尿酸血症や肥満を合

併した方に多くみられます

が、肥満のない方でも起こ

ることがあり、成人の8%

程度は非アルコール性脂肪

性肝疾患であると言われて

います。

この中には、肝臓内に脂

肪沈着するのみの単純性脂

肪肝と、線維化が進行し、

肝硬変・肝がんとなる危険

性のある非アルコール性脂

肪肝炎があります。近年、

これら非アルコール性脂肪

性肝疾患のうち15〜20%の

方が、慢性肝炎であること

が知られるようになりまし

た。更に、このうちの10〜

20%(全体の脂肪肝の2〜

3%程度)が肝硬変に進展

していると報告されています。

単純性脂肪肝、非アル

コール性脂肪肝炎の段階に

特徴的な症状はなく、無症

状で経過することがほとん

どです。肝線維化、肝硬変

への進展に伴い、他の原因

同様、全身倦怠感、掻痒感、

黄疸などの症状がみられる

ようになります。現在のと

ころ、非アルコール性脂肪

肝炎と診断するためには肝

生検やMRIなどが有用

とされています。

治療としては、有効性が

示されている薬物療法は少

なく、適切な栄養指導を組

み合わせた減量や外科治療

による減量が有効で、糖尿

病や脂質異常症、高血圧な

どを合併している場合は、

それらの治療に伴って改善

していきます。

岩手医科大学は2017年
創立120周年を迎えます



誠のあゆみ、未来へつなぐ

Iwate Medical University 岩手医科大学